

種名	オニヤンマ <u><i>Anotogaster sieboldii</i></u> 
分類	昆虫綱トンボ目 オニヤンマ科
俗称	いかめしい顔つきと黒色と黄色の段だら模様から、「鬼」のようなヤンマという意味でつけられた。
形態的な特徴	体長95～100mm(腹長雄:60～76mm、雌(産卵器の先まで):75～86mm)ほどで、日本国内に生息するトンボ類のうち最大で、とくに雌は大きい。体色は雄雌とも黒色地に黄色の縞模様があり、成熟個体の複眼はエメラルドグリーンで美しい。幼虫は体長40～46mm(頭幅11～13mm)ほどの大きなヤゴで、腹部背面に比較的にはっきりとした2本の黒条と複雑な褐色斑がある。体つきはがっしりしていて毛深く、体表の肌目が粗いなどの特徴がある。
分布	北海道、本州、四国、九州に分布する。離島では南千島、飛島、栗島、佐渡島、神津島、御蔵島、淡路島、隠岐、見島、壱岐、対馬、五島列島、天草諸島、甕島列島、種子島、屋久島、口永良部島、奄美大島、沖縄本島、石垣島、西表島、奥尻島などに分布する。
繁殖行動	成虫は6月から10月頃に見られる。幼虫はおもに夜間、水際の植物や護岸壁などの垂直な部分に定位して羽化する。未成熟個体は、羽化水域から少し離れた山の斜面などに集まる習性があり、ときには群れて飛び姿が見られる。また、夏季に林縁や林内の路上の同じ場所を往復飛翔する。成熟した雄は、小川のような小さな流れの上を往復飛翔してパトロールをする。交尾は細い枝先などにぶら下がっておこなわれ、2～3時間に及ぶこともある。交尾後の雌は単独で砂泥底のごく浅い水域を訪れ、腹部を砂泥底に垂直に突き刺す行動を何度も繰り返し産卵する。幼虫期間は2～3年といわれている。
生息場所	平地から山地の小川や湧水、湿地、滞水など極めて広範囲に渡って生息し、幼虫は水底の砂泥中や落葉など植物性沈積物の下に潜んで生活している。平地から山地まで生息地が広範囲にわたっているため、比較的多く見られる。しかし営農形態の変化に対応して農地整備が進むにつれ、産卵や幼虫の生息に適した水路や小川が減少しており、本種の生息に影響を与えているものと考えられる。
生息環境への配慮事項	幼虫期間が2～3年と長く、緩やかであっても流れのある水域の底の砂泥中に潜って生活することから、夏に水が停滞していたり冬季に水が涸れてしまうような水域では生息できない。したがって、これらの条件を整える必要がある。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html	